

THE ピックアップ ラコルタの取り組みを紹介！

ラコルタの会議室を使って、
オンラインでの会議や
活動をしませんか？

インターネット回線＆
周辺機器 貸し出しのご案内

4月から料金が
お得になりました！

「無線LANルーター」が
無料で使えます。

100円 → 無料！

ラコルタで会議！



貸し出し備品	単 価	貸し出し備品	単 価
無線LANルーター	無 料	WEBカメラ	200 円
		WEBマイクスピーカー	200 円
LANケーブル	無 料	USB延長ケーブル	無 料
三脚	無 料	電源タップ	無 料

【使用範囲】
ラコルタの会議室内
(ご使用時)
【使用料金】
単価×使用時間
(午前・午後・夜間)
【申込方法】
会議室の使用申請時

※パソコン・タブレットなどの貸し出しは行っていないです。各自でご用意ください。 ※数に限りあり。先着順。

会議室のご案内

※営利・政治・宗教目的では利用できません。



	午前	午後	夜間	午前・午後	午後・夜間	全日
	9:30～ 12:00	13:00～ 17:00	18:00～ 21:30	9:30～ 17:00	13:00～ 21:30	9:30～ 21:30
会議室1 18名	500円	800円	700円	1,300円	1,500円	2,000円
会議室2 24名	1,000円	1,600円	1,400円	2,600円	3,000円	4,000円
会議室3 24名	1,000円	1,600円	1,400円	2,600円	3,000円	4,000円

※プロジェクター・スクリーン・マイクセットを無料でご利用いただけます。(数に限り有。申込先着順)
※防音対応ではないため、楽器の演奏や大きな発声は他の方の迷惑となりますのでご注意ください。

■新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、施設をご使用いただけないこともあります。詳しくはスタッフまで。

どなたでもご参加ください！ ラコルタの講座・イベント

6月28日(火)

市民公益活動団体向け YouTube入門講座

チャンネルの開設方法や注
意点などを学びます。

●とき：19:00～21:00
●定員：先着20名

6月29日(水)

地域諸団体のための 会計講座

自治会、高齢クラブなどの
新任担当者におすすめ。

●とき：10:00～12:00
●定員：先着20名

テーマカフェ

6月26日(日)

吹田のまちなみ 100年紀行

開発された時代毎の写真
を見ながら交流します。

●とき：10:30～12:00
●定員：先着15名

お申込み・
お問い合わせは
ラコルタまで

TEL:06-6155-3167
FAX:06-6833-9851
Eメール：
info@suika-koueki.org
※費用が明示されていない
イベントは無料。
※申込期限の記載がなけれ
ば前日まで。

編集
ノート

この4月からセンター長に着任いたしました。ラコルタは、2012年9月に開設して以来、多くの方に支えられながら施設の運営にあたってきたところです。新たな体制のもと、これまで以上に市民の思いを尊重しながら、吹田の地域づくりを支えていきたいと思っています。

＜発行責任者＞ 春貴勇力
＜編集スタッフ＞ (五十音順)
茨木由美・入江陽子・森戸秀次・
柳瀬真佐子・矢野真里加・山本泰秀

ラコルタ吹田 検索 <https://suika-koueki.org> アクセス 阪急電車千里線「南千里駅」改札出て左、千里ニュータウンプラザ6階

※年4回発行 (3月・6月・9月・12月)
Newsletter Vol.39

ラコルタ

吹田市立
市民公益活動センター

VOL.39

出会う→集う→育てる→実る

Newsletter 2022年6月1日号

○表紙：「Be Social」第24回・孫 悦嘉さん

○中面：特集 / いま考えたい
「ヤングケアラー」のこと

○うら：ラコルタの取り組み、イベント

「市民公益活動」は市民が自発的に行う社会貢献活動です。

市民公益活動センター（愛称：ラコルタ）は市民の力で
吹田市をより良いまちにするため、これらの活動を支援しています。



私たちが暮らす
地域や社会の事を
他人事ではなく自分事にする。
そういった“ソーシャルな生き方”の
魅力をお伝えします。

第24回 孫 悦嘉さん
大阪大学大学院
高等司法研究科1年

2010年に中国から来日し、豊津
第一小学校へ転入。中学生のとき
に(公財)吹田市国際交流協会
「ハロハロSQUARE」※の1期生と
して学び、2021年4月からはボラ
ンティアとして活動している。

※外国にルーツをもつ子どもの
放課後教室



学びの場が
つながる場へ

自分の経験を活かして

親の転勤で、ひらがなとカタカナだけを覚えて12歳で来日しました。「ハロハロSQUARE」(以下、ハロハロ)では勉強だけでなく、学校や日常生活の相談にも乗ってもらえたことで、日本での生活に慣れることができました。言語が分からない環境に置かれ、戸惑いや不安を感じた経験から、同じ境遇の子どもたちの力になりたいと思い、活動を始めました。

教える立場になって

教えてもらう側だった時は気軽に質問していただくのが、教える側の立場になると、どうやって教えれば良いのかすごく考えさせられます。カタカナを覚えるのに苦労していた子どもを担当した時には、週ごとに目標をたて、本人のやる気を引き出しながらサポートしました。教え方に難しさを感じることも多いですが、私自身の学びにもなっています。

社会とつながる場所

子どもとの関わりも楽しいのですが、ボランティア活動は幅広い年代の方とも交流できるので、様々な考え方に触れることができます。普段は家族や学校での人間関係に限られますが、私にとってハロハロでの活動は社会とつながる大事な場所になっています。

学ぶ

ボランティア・NPO 初歩講座

興味がある方、活動はしているがもっと理解を深めたい方など。「出前講座」も承ります。お気軽に！
●毎月開催！ ●定員 10名

やってみたい！の聲に
お応えします！
見つけよう！
自分にあった
ボランティア

単発！
短時間！
体験

働きざかりの方や家事・勉強に忙しい方など週末や余暇の新しい過ごし方として。初心者の方でも気軽に参加できます！
(例)お弁当作り・竹林整備など

「ボランティア・NPO 初歩講座」「ぷちボラ」のお申込み・お問い合わせはラコルタまで

指定管理者 NPO 法人 市民ネットすいた

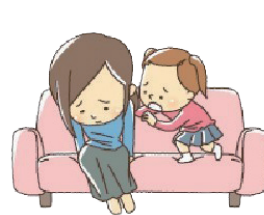
いま考えたい 「ヤングケアラー」のこと

ヤングケアラーとは・・・

例えば、こんな状況にある
子どもたちです。



障がいや病気を有するきょうだいの見守り・お世話



精神的に不安定な親を支えている、グチを聞いている



年下のきょうだいの面倒をみている



家事をしている



高齢の家族の話し相手



日常生活の介護、手伝い



外出の手伝いをしている



病院に付き添っている



家族の通訳

(©ヤングケアラー研究チーム / イラスト：FMCイラスト工房多田文彦)

大阪府内の状況

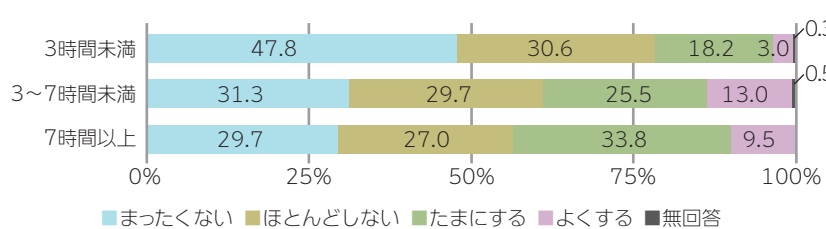
(2021年度「府立高校におけるヤングケアラーに関する調査」より)

大阪府が実施した府立高校生を対象にしたWEB調査では、回答者約2万人のうち、**1,312人(6.5%)**が「世話をしている家族がいる」と回答しています。

また、学校生活の状況については、欠席や遅刻、宿題ができないといった傾向が見られました。

大阪府では、ヤングケアラーを適切な支援につなげるため「見つける・つなぐ・支える」という3つの視点で支援体制の構築に取り組まれています。

【世話に費やす時間と欠席との関連】



弁護士の 峯本 耕治さんに
聞きました！

子どもの権利を
守るために
地域にできること

ヤングケアラーの支援について考えるときは、国連「子どもの権利条約」が定める「**成長や発達の権利**」「**虐待から守られる権利**」が侵害されているという視点を持つことが必要です。
長時間にわたるケアが要因となっ

て、学習意欲の低下や不登校につながる例や、幼い弟や妹の世話を担わざるを得ない例などは、ネグレクト(育児放棄)に至っていると言えます。
ヤングケアラーを支えるには、それぞれの状況に応じた専門的な支援

「ヤングケアラー」とは、法令上の定義はありませんが、「本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話を日常的に行っている子ども」とされています。2021年に国が初めて実施した全国調査では、中高生のおよそ20人に1人がヤングケアラーという結果が報告されました。ケアに伴う大きな責任や負担が、進学や就職、人間関係など、その子の将来にわたって深刻な影響を及ぼすケースがあるとされ、大阪府や大阪市では地域ごとの実態把握を進めています。

一方、「ケア」という言葉から連想されるイメージや、子どもが家の手伝いをするのは当たり前という社会の認識から、本人や家族もSOSを出しづらく、孤立を深めてしまうという課題も指摘されています。

国や自治体による総合的な支援が急がれる今、ヤングケアラーの現状をあらためて知り、問題の本質と地域でどう支えていくかを考えるきっかけにしたいと思います。

当事者を支える取り組み

当会は、家族のケアを担う子どもや若者の交流と、その存在を社会に発信していくことを目的として2019年12月に発足しました。隔月で開催している「つどい」※では、参加者のケア体験を共有しています。活動拠点は大阪ですが、東京や北海道からオンラインで参加される人もいます。

味方がいる、仲間がいる

「つどい」はいわゆるピアサポートの場です。同じ経験をした人たちの輪だからこそ語れる、分かり合える大事な時間となっています。例えば、「色々な状況の方の話が聞けて、葛藤しながら頑張っているのは私だけじゃないんだと思えました」や「このような環境だからこそ、隠さなきゃいけないと思っていた自分の本音と向き合う良い機会になりました」、「同じ境遇の人の悩みを聞いて共感できる部分があり1人ではないと思った。もしかすると自分もそう言う人た

特定非営利活動法人
ふうせんの会

事務局長
南 多恵子さん

ちの力になれるのではと感じた」などの声が寄せられています。ケアについて安心安全に話せる居場所であり、自分も誰かの役に立てるのでは…と気づく機会にもなっているようです。

サインに気づく視点を

当事者の経験は一人ひとり異なるものの、共通していると感じるのは、家族のケアを終えた後もしんどさを抱え続ける人がこれほどいるということです。だからこそ、子ども時代に社会が気づくことはとても重要で、「もしかして、ヤングケアラーなのかもしれない」というサインに気づく人が少しでも増えてほしいと思います。

※「つどい」は主に奇数月の第2日曜日に開催。参加者の年齢やケア経験はさまざま。話を聞くだけの参加もOKです。詳しくは団体のWEBサイトをご覧ください。

ふうせんの会



相談は
こちらへ...

大阪府吹田子ども家庭センター(児童相談所)

ヤングケアラーをはじめ、子どもや家庭についての相談、青少年(おおむね25歳まで)についての相談を受けています。

TEL:06-6389-3526

FAX:06-6369-1736 吹田市出口町19-3

受付時間:平日9:00~17:45

お知らせ テーマカフェ「ヤングケアラー」

当事者による経験談などをお聞きし
私たちに出来ることを一緒に考えませんか？

7月30日(土)
14:00~16:00

- 会場:ラコルタ
- ゲスト:ふうせんの会
- 定員:先着30名

参加費無料。詳細、お申込みはラコルタへ

弁護士 峯本 耕治さん

大阪弁護士会 子どもの権利
委員会所属・吹田市児童虐待
防止ネットワーク座長・NPO
法人関西こども文化協会副
理事長ほか

